



こんにちは！印南町子育て世代包括支援センターです！！
「GBS感染」についてお伝えします。



ー知って得するまめ知識ー

「妊娠とGBS」

妊娠後期になると、すべての妊婦さんが膣の中の「GBS検査」を受けることになっています。これはどうして検査する必要があるか、ご存じですか？



【GBSとは？】

B群溶血性連鎖球菌と呼ばれる細菌のことです。GBSそのものは非常に生命力が弱い菌で、普段は膣や膀胱、肛門周囲などにいる常在菌です。

健康な女性では膣内に検出されても害を及ぼすことはなく、自覚症状もほとんどありません。一般的に妊婦さんの10〜30%から検出されています。



【なぜGBSに気を付けないといけないの？】

健康な人にとっては特に病気のリスクもほとんどなく、保有していても問題はありません。ただ、妊娠中のママがGBS検査をして陽性になった時、分娩時に産道を通して生まれてくる赤ちゃんが感染してしまう可能性が出てきます。

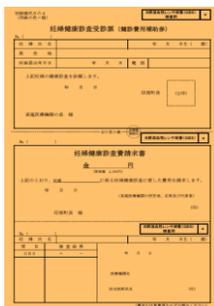
そのため、出産前に妊婦さんがGBSを保有しているかを知っておく必要があります。



【どんな検査？】

検査は妊娠35〜37週の妊婦健診の時にいきます。綿棒で膣入口部のおりものを採取して、検査します。だいたい1週間くらいで結果が出ます。

妊婦健診受診票の中のオレンジ色の紙でGBS検査をします。



【検査で「陽性」と判断されると・・・】

ママが「GBS陽性」だと赤ちゃんの出産時にGBS感染症にかかるリスクを防ぐための処置がとられます。

陣痛初来と判断されたとき、または先に破水したと判断されたとき、赤ちゃんが生まれるまで6時間ごとに抗生剤の投薬を繰り返します。

薬物の血中濃度を保つことで、ママを介して臍帯から抗生剤の効果が移行して感染のリスクを減らすことにつながります。

予定帝王切開のママは赤ちゃんが感染する心配がないので抗生剤の投薬は行いません。

【赤ちゃんのGBS感染症って？】

新生児のGBS感染は、産道を通する時に赤ちゃんの目や鼻、口などから体内に入り、肺炎や敗血症、髄膜炎などの重度の感染症を引き起こす可能性があります。

GBS陽性でも赤ちゃんに感染するとは限らず、赤ちゃんが感染しない確率が高いので、検査することで予防の対策がとれるということなのです。

【妊娠中に気を付けること】

妊娠後期にはおりものも増えてきます。こまめに下着を取り換えて、清潔保持に努めましょう。

妊娠中に気を付けたい感染症は他にもあります。

以前のママサポ通信で「**①妊娠中の母子感染**」についてお知らせしています。

興味のある方はご案内文にあるQRコードを読み取って覗いてみてください！

く熱中症の対策もく



暑い日が続きますが、熱中症対策はできていますか？

妊娠中は熱中症になりやすいと言われていきます。

こまめに休憩をはさみ、水分補給を心がけましょう。